Member IMC Group
イスカルジャパン株式会社
http://www.iscar.co.jp

本社
〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1-5-3　千里朝日阪急ビル15F
Tel. 06-6835-5471　Fax. 06-6835-5472
東京支店
〒143-0016 東京都大田区大森北1-17-2　大森センタービル 7F
Tel. 03-5764-1181　Fax. 03-5764-1182
名古屋支店
〒464-0850 名古屋市千種区今池5-1-5　名古屋センタープラザビル9F
Tel. 052-735-3981　Fax. 052-735-3982

仙台営業所 Tel. 022-304-2291　浜松営業所 Tel. 053-482-0091
郡山営業所 Tel. 024-954-6901　安城営業所 Tel. 0566-71-3471
長岡営業所 Tel. 0258-33-1831　四日市営業所 Tel. 059-350-0151
上田営業所 Tel. 0268-28-5231　草津営業所 Tel. 077-566-7071
太田営業所 Tel. 0276-55-3551　神戸営業所 Tel. 078-304-6871
水戸営業所 Tel. 029-291-5401　岡山営業所 Tel. 086-238-4971
厚木営業所 Tel. 046-226-6681　広島営業所 Tel. 082-831-1871
金沢営業所 Tel. 076-258-7931　福岡営業所 Tel. 092-432-2731

フリーダイヤル 0120-159110 いい工具 110番
9:00～12:00、13:00～17:00（土・日・祝日を除く）
TOKYO 東京営業グループ ☎(03)6406-2635　東京市販グループ ☎(03)6406-2636
NAGOYA 名古屋営業グループ ☎(052)963-2841 ☎(0566)74-7091[安城]　名古屋市販グループ ☎(052)963-2880
OSAKA 大阪営業グループ ☎(06)6221-3600　大阪市販グループ ☎(06)6221-3700
≫ 切削工具の最新情報を発信中 ≪　http://www.sumitool.com　製造元：住友電工ハードメタル株式会社
Ingenious Dynamics　住友電工

11月25日は金型の日

急がれる日本の金型業界の標準化

日本工業大学専門職大学院　教授
横田　悦二郎

今、日本の基盤産業は大きな変革点を迎えている。その原因は間違いなく〝ビジネスのグローバル化〟である。今年、日本金型工業会が策定した新金型産業ビジョンでも工業会などで押し進めるべき項目の中に、「日本発の金型に関する国際標準の作成に関する件」がある。標準化には「技術の標準化」と「ビジネスの標準化」がある。日本の金型産業はこの二つの標準化を同時に進めなければならない。それでは日本の金型産業は今後どのように「国際標準化」に取り組むべきかについて述べる。

国際間取引ビジネス標準化

「主導権」が生き残りの道

海外の金型工業会のメンバーなどと会議をしていると、「日本の金型業界では常識的標準だが世界から見ると非常識な標準」と思われるものがある。ただ、日本の金型産業が依然として〝アジアナンバーワン〟の地位にあり、アジア諸国の中では金型業界のお手本業界となっていることは間違いない。

この優位な地位にある状況を利用して、今のうちに、日本の金型業界の標準をアジア地域における金型業界標準にし、「日本の金型業界の常識はアジアでも常識」である状況を作り出すことが求められる。

以前、アジア金型工業会協議会（FADMA）で標準化の第一歩として「金型用語の標準化」活動を行った。これはアジア域内で使われている金型用語が違うので国際間でビジネスを行う場合に不都合なことや誤解によるトラブルが発生することを防ぐ目的であった。

この活動は一定の成果は得られたが、「用語」は既に各国で長年使われていることもあり、アジア地域の国々が全てこの標準用語を使用する環境にはならなかった。加えて日本国内だけを見ても多くの関連工業会との調整が取れなかったこともあり、国内でも用語の標準化は進まず、現在でも業界間でのトラブルの発生が見られる結果となっている。

このように既に各国で使われている標準を「日本発の標準」にすることは難しい。また、新たな技術を日本で開発したとしても、日本には長い歴史を持つ多くの同種の企業や工業団体があり、その国内調整に時間がかかり、世界に国際標準として発信する時期を逸する傾向が強い。

一方、新興国などのライバル国では、歴史が浅いことやビジネスの形態が違うこともあり少数の業界旗艦企業が国内調整を迅速に進めることが可能だ。このため、国際標準として世界に発信するケースが目立つようになってきた。

このままでは優れた日本の技術は「世界標準とは違う」と言う理由だけで採用されなくなり、グローバル経済下では苦戦を強いられる結果を招くことになる。この状況を打開するために経済産業省は今年1月「トップスタンダード制度」を策定した。

これは企業や団体の標準化に係る要望を日本工業標準調査会（JISC）事務局または日本規格協会（JSA）が事前相談を受け付け、「本制度を活用することが適当である」という結果が得られたら、国内の業界団体の調整なしに国際標準化機構（ISO）などに提案を行うことができるものである。これによりこれまで国際標準提案が困難であった技術の迅速な提案が可能になった。

しかしながら、国際的な標準は新技術の標準化だけではない。むしろ今、日本の金型産業が海外展開を行うために必要なのは〝国際間取引ビジネスにおける標準化〟である。特にアジア経済域内におけるビジネス標準を日本の有利なものにすることは急務なことである。

ビジネス標準の面で見ると日本には金型代金の支払い方法に見られるように、日本の金型業界が非常識すぎ、国際標準に合わない項目も少なくない。これらの日本の非常識標準を早急に、国際標準に修正する必要もあるが、グローバル調達が進展することを加味し、少なくともアジア諸国での「金型価格の見積もり標準」を日本標準に合わせることも日本製金型の販売量を増加させるためには急がれることである。

この〝国際標準作成〟の主導権を取る動きは、既に技術面での標準化に関してはドイツをはじめとする欧州諸国がリードしている。ビジネス面での標準化に関してはインドやシンガポールも動き出している。特にシンガポールは、標準化の主導権をとることが産業の生き残りであることを現地工業会も明言しており、着実にアジアへの発信を行っている。

しかしアジア新興諸国はやはり「モノづくりの標準化におけるリーダー役は信頼できる日本である」という認識は強く、日本からの早急な発信に期待していることは忘れてはならない。今後、金型業界団体は他の関連業界団体と連携しながらこの標準化に取り組むことが望まれる。

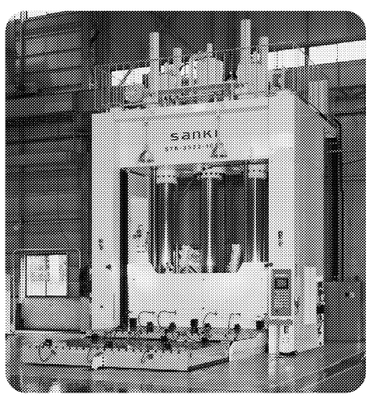
シンガポールは標準化の主導権を握ろうとしている（活動の中心となるInstitute of Technical Education）

油圧プレスの明日を見つめる技術の三起精工

プレス金型仕上げ・試作・連続生産に対応

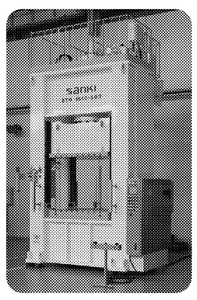
トライアウトプレスSTRシリーズ

STR-3522-1000MARS
加圧能力（KN）：10,000
テーブルサイズ(㎜)：横幅 3,300　奥行き 2,200

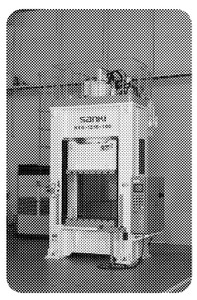


11月25～26日10時から、本社組立工場で「新製品内覧会」を開催します!!
インバーターモーターを搭載し、地球環境にやさしい15,000KNのトライアウトプレス「STR-3020-1500MG」をご覧いただきます。
「生産性向上設備投資促進税制」
「新ものづくり補助金」の適用対象機種です。

STR-1612-500G
加圧能力（KN）：5,000、
テーブルサイズ(㎜)：横幅 1,600　奥行き 1,200



STR-1210-300G
加圧能力（KN）：3,000
テーブルサイズ(㎜)：横幅 1,200　奥行き 1,000



油圧プレス総合メーカー　sanki 三起精工株式会社

本社・工場
〒326-0328 栃木県足利市県町890-4
TEL.0284-72-2002㈹　FAX.0284-72-2070
名古屋営業所
〒463-0033 名古屋市守山区森孝東2-120パウゼ藤が丘105
TEL.052-779-2431㈹　FAX.052-779-2434
詳しくはホームページを 検索
http://www.sanki-seiko.co.jp

sanki お客様訪問①

ハイテン材向け金型・成形で、車の軽量化に寄与

今回の訪問先＝三重県鈴鹿市　奥岡技研様

インタビューに答える奥岡技研の東海取締役

三起精工製の機械が並ぶ本社工場

モータースポーツの〝聖地〟三重県鈴鹿市。ここに2輪車・4輪車部品の試作・開発やプレス金型、小ロット量産を手がける奥岡技研（奥岡卓美社長）がある。自動車メーカーの環境対応ニーズをとらえ、同社は軽量ながら高強度の高張力鋼板（ハイテン材）に対応した設備投資に余念がない。12月には延べ床面積約1155平方㍍の新工場を完成し、三起精工製の加圧能力1500㌧の大型トライアウトプレスを導入する。

トライアウトプレスは、プレス金型の仕上げや試作、連続生産に対応した機械。1500㌧機は、三起精工にとっても最大級。クルマ業界では燃費向上のため部品の軽量化が大きな課題となっており、ハイテン材の採用を加速させている。ただ、ハイテン材に従来ある生産設備では対応しにくく、もう一段上の加圧能力が必要になるという。

「難易度の高い工程で先進技術を追究する、まさに社運をかけた決断です」。奥岡技研の東海伸夫取締役工機製造部長は、1500㌧トライアウトプレスの導入について語る。新工場は同社売上高の6割を占める試作・開発部門の要。ここに同プレスのほか、従来ある三起精工製の300㌧、500㌧、800㌧の油圧プレスなどが勢ぞろいする。「三起さんとは10年来のおつきあい。成形したい部品のサイズや工場のスペース制限などの細かい要望に耳を傾け、当社に合った機械を一から設計・製作してくれます」と信頼を寄せる。

1500㌧の大型トライアウトプレスを導入

奥岡技研は当初、小型部品の金型などを得意としてきたが、今やシャシーやサイドピラーなど大型部品の受注に力を注ぐ。プレスにとどまらず、金型加工用のマシニングセンターやシミュレーションソフトなどでも先行投資も行う。

「小規模ながら、難加工・短納期・低コストの要請に応える一貫体制に磨きをかけて、国内で生き残りを図りたい」と、あくまでも力強い。

●奥岡技研様のデータ
▽本社所在地＝三重県鈴鹿市三日市町1820の38、059・383・6800　▽拠点＝鈴鹿市に本社工場とテクニカルセンター、新工場、四日市市に第2工場を置く▽創業＝1981（昭和56）年　▽従業員＝約90名で、平均年齢はおよそ38歳　▽年商＝2015年1月期は17億円を見込む　▽奥岡卓美社長のモットー＝「広く、やわらかな考え方と最新技術でユーザーニーズにお応えします」

12月に稼働する新工場

次回は12月11日付に掲載予定

PR